

駒の館だより

明治鍼灸大学図書館報

第 14 号

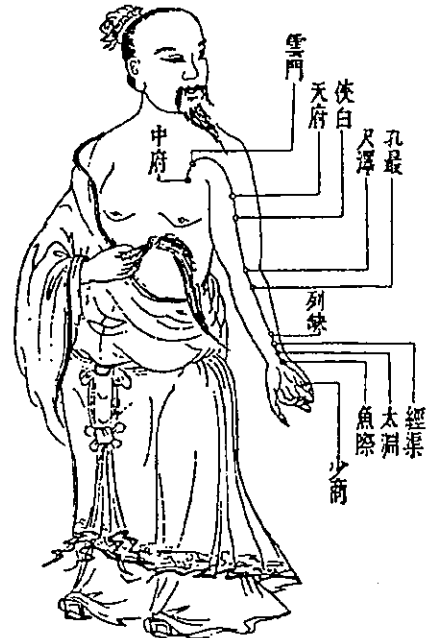
平成 7 年 3 月 1 日 発行

明治鍼灸大学附属図書館

〒629-03 京都府船井郡日吉町
TEL. 0771-72-1181(代)

目 次

- 教育委員長おおいに図書館を語る 松浦忠夫 ... 2
- 開架完了 附属図書館 ... 3
- 図書館へちょっと一言
..... 福田康二、福永雅喜、新原寿志、繁原貴子、小林貴子、中村直登 ... 5
- 私のお薦めの一冊 多田健治 ... 12
- 図書館よりのお知らせとお願い 附属図書館 ... 13
- 図書館運営委員会記事
..... 附属図書館 ... 13
- 図書館データ、データ
..... 附属図書館 ... 15
- 図書館学うんちく
..... 福田代見 ... 16
- 東医関係新着図書および
新着医学系視聴覚資料
..... 附属図書館 ... 18
- 編集後記 20



教育委員長大いに図書館を語る

— 教育と図書館 —

解剖学教室教授・教育委員会委員長 松 浦 忠 夫

図書館の役割については本報においても幾つか述べられている。しかしそれらは基本的な面あるいは研究面から述べられたものが多く、教育・学生との関わりについての記載は少ない。そこでここでは後者について少考してみたい。

若者の活字離れが言われて久しい。日常、読む生活から見る生活に移行し、歴史から法律まで絵（漫画）による解説書が出版される時代である。この間情報の伝達・記録様式もコンピュータ、ビデオ等の発展により多様化してきた。水越元学長（第8号）、西川教授（第9号）は、活字媒体に留まらずこの多様化に対応すべく図書館に情報資料館という位置づけを与えておられる。これらのコンピュータ、視聴覚資料を学生に自由に利用させることにより学習への動機づけ、教育の補助・強化等教育面での活用の道を計りたい。昨今これらのソフトは種々市販されており、各教室で独自に備え、活用されていることと思われるが、これを back up の意味も含めて一部図書館に備える。しかし、市販資料には多くの利点はあるもののその編集方針、内容等我々の教育方針、目的等に十分適合するとは限らない。主たる教育資料は教育目的、ニーズに基づいて我々独自に作成・編集し（武田元館長第2号）、そのコピーを一部図書館に備えて学生の自学の便に供する。これには多大な労力と時間を必要とすると思われるが試みる価値はあるだろう。ここで図書館にお願いしたいのは、1) 資料の収集に一段の努力をほらうこと。2) それらの資料目録を利用し易いように整備すると共に個々の簡単な説明文を付する。3) 本学のカリキュラムでは、これらの資料を利用した十分な自学の時間を用意することは難しい、そこで土曜開館（隔週でも）の便を計っていただきたい。4) 必要機器を備え、数名単位で利用できるスペース又はブースの設置を検討していただきたい。これらは全て図書館だけの裁量で出来るものではない。資料の収集、説

明文の添付に関しては教育担当者の協力が欠かせない。利用スペースの確保は現状の図書館ではかなり苦しい。しかし、前向きに考えていきたいものだ。

活字離れの現状に即して上述してきたが、現在研究に限らず教育資料においてもその主力は活字（書籍）に依っている。学生諸君には読書の努力をし、習慣づけてもらわなければならない。視聴覚資料の利用はそのきっかけ作りの一つとして有用であると考え。また、多様な文献資料に触れてもらうのも有効であろう。そのためには現在の一部開架式でなく、全開架式が望ましい。

学生の利用頻度の高い図書を閲覧室に出してもらっているが、これらについて種類・冊数等状況に応じた対応をすると共に、痛んだものは適宜取り替るなりして快適な利用を計っていただきたい。将来的には、岩瀬元教授（第6章）も述べておられるが、discussion room 的なスペースの設置も考えて欲しい。一応の視聴覚器機も備えられていれば申し分ない。図書館付置の会議室は多くの場合備えられているが、学生の実験レポート作成に際しての discussion、大学院生等の学会発表の練習の場等に気軽に使えるスペースは意外に用意されていない。

思いつくままに書き連ねてきたが振り返ってみると大半が図書館あるいは大学への要望になってしまった。そこで要望ついでにもう少し、森本館長、福田主査を新たに迎えて図書館も種々改革がなされている。図書館内には意見箱、本報には提言欄を設けて広くユーザーの意見を吸い上げ、運営に反映しておられる。これは今後とも続けて大いにやっていただきたい。新たに書評欄が設けられた。ここで幅広い分野の書籍の紹介・評価がなされるのは結構だが、巻末に挙げられている新着図書の中から代表的なものを幾つか取り上げて書評するのも一法であろう。卒業生における図書館利用は在学生に準じた扱

いになっているということである。しかし多く(全て?)が遠隔地に在住しており大学まで足を運ぶのは難しい。もう一步扱いを進めてコピーサービス等の便宜を計り積極的に利用を勧めてはどうか。

図書館は大学の顔である、とはよく言われるところである。その造形を決めるのは収集資料、施設・設備の質と量であり、美醜に大きく作用するのはサービスという粧いであろう。この顔は、しかし、ややもすると研究という彼氏(彼女)の方を向きがちである。大学図書館のユーザーには卒業生も含めて学生という大きな存在があり、教育という大目的があることを常に念頭においておかなければならない。



大学院より雪の桜坂を望む

開架完了……出しました、見て下さい

附属図書館

学生諸君!!お待たせしました。前図書館報13号“新米図書館長就任の弁”で公約しておりましたとおり、開架図書的大幅増加を断行致しました。それに伴って書架を設置するためレイアウトを行ないました。閲覧室東側の空地(?)に書架を24基並べほぼ5000冊の図書を配置しました。もちろん中心は医学書です。翻訳ものの教科書も多いのでこれらの原書も出してみました。参考にして頂ければ幸いです。これで医学書の全体の約70%が開架となり皆さんに直接手にとって選んで頂けるようになりました。全体で12,000冊程度の数になります。もちろんまだ

閉架に残っている図書は有るのですが、これらは製本雑誌とか非常に特殊で使用頻度の低いものばかりで閉架にあっても学生諸君に不便をもたらすようなものではありません。これまで学生諸君には大変ご迷惑をおかけしたと思います。閉架内の図書を見るのに図書カードをくってもらっていました。実を言いますと当館の館長はこれが大変苦手で、“あんな面倒くさいことができるか。カードなんかで見たい本が探せるはずがねー。実物見ずに本の内容がわかるもんか”と常々学生には内緒で吐きすてるように言っておりました。当然のことながら学生諸君からはしょっちゅう開架図書の増加を要求されておりました。

これは大改革です。図書館の努力を讃えて頂きたいものと思っております。ただ改革とは独創であり、現状の変更を伴うものですから、いいことばかりとは限りません。思いもよらぬところへ種々の軋轢が発生することも覚悟しなければなりません。以下に今回の処置のメリット、デメリットをまとめてみました。そこから皆さんにお願いしなければならぬことも浮かび上がって参ります。ご協力の程をお願い申し上げます。



開架完了



開架後図書をさがす



開架作業中のスナップ

利 点

1. 希望する多くの図書を手にとってみることができる。
2. 館内閲覧に際して一々貸出の手続をしなくともよい。
3. 蔵書の全貌が掴める。
4. 図書館としては一々書周内へ本を捜しに行ったり、返却に行ったりする回数が少くなりその分他の受付業務の対応がスピーディーになる。

短 所

1. 閲覧席が狭くなる。
2. 返却がいいかげんだと、図書の置き場所が無茶苦茶になる。
3. 紛失が増える。
4. 図書をさがすのに、開架、閉架の両方をみなければならない(教官)。
5. 手軽に見えるのでつい扱いが雑になる。

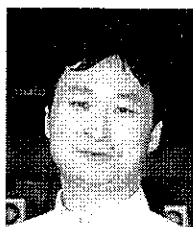
等々でしょうか。もちろん他にもいろんなことがあると思います。このうち我々図書館職員が最も心配するのは図書の紛失であります。昔から図書館の敵は火、水、虫と決まっていたのですが、最近それに新たな敵が加わりました。人です。ようするに、かっぱらい。これは現在どこの図書館でも悩みの種になっておるようです。そのために種々のBook Detectionの装置が開発、販売されメーカーが利益を得るに至っております。しかしある程度は避けられないでしょう。しかしそれを恐れてばかりいては何もできません。思い切って今回の処置をとりました。

図書館としては実験のつもりです。この処置のために図書館運営がガタガタになるようでしたら、また元の閉架方式に戻らざるを得ません、それは皆さんにとって多いに不便なことと思います。そうならぬよう以下の諸事項をお守り頂くようお願い申し上げます。

1. 図書を無断で持ち出さぬこと。これはたとえうっかりであっても図書館に対する重大な犯罪を構成します。注意して下さい。
2. 利用した図書は必ず元の場所へ返却する事。開架図書は大雑把ですが図書分類法に従って分けてあります。これだけの冊数になりますとうっかり別の場所へ置くと捜し出すのが非常に困難となります。エンロピーは常に増大することをご承知置き下さい。
3. 大切に扱うこと。開架になって見易くなったからといって雑に扱って壊したり汚したりしては元も子もありません。皆の財産という意識を持って下さい。

以上です。今後も利用者の皆さんの使い易い図書館にするよう努力します。そうしていけるよう、皆さんのご協力をお願い申し上げます。

前号より引き続きまして利用者の皆さんからの一言をお寄せ頂きました。特に今回は初めての試みとして卒業して医療機関に勤めたり開院して臨床に携わっている皆さんにも寄稿をお願いしました。初回は大学3期生で奈良で王寺鍼灸科院の院長である福田康二(旧:光男)氏にお願いしました。



福田 康二

(旧:光男) 大学3期
奈良、王寺鍼灸科院院長

早いもので卒業後6年経つ大学3期生です。鍼灸院に就職後、2年前に開業し現在に至っております。受付業務から治療その他雑用すべてを行なうひとり院では、臨床、経営などで身近に相談相手、質問できる先生がいればと思う事が多くあります。治療上、直後効果の乏しい場合、治療回数を重ねていっているのに改善してこない患者さんや初診時のみで再診にやっこない患者さん等々……。治療方針は正しかったのか、もっと他の方法が良かったのではないかなど悩みながらの毎日です。

臨床経験も少なく知識も乏しい立場で、まず手がかりを得る手段は書物、文献を調べる事です。高価な専門書をたやすく購入し続ける経済的余裕はもちろんなく、大きな書店でさえ数少なく立ち読みで満足することはできません。公立図書館や地元の医科大学附属図書館でも予想どおりというべきか中医学関連の書籍は極わずかな蔵書しかありませんでした。

そのような自分の周囲の状況下、年に2~3回(雪に埋もれる厳冬期を避けて)大学図書館へ足を運びます。幸いにも私の住居地奈良県からでは日帰り可能で休診日の都合を調整して訪問しています。図書館以外にも先生方に直接質問したり、また貴重な話を伺える事。そして気分転換に4年間生活した殿田の空気を吸うのも目的になっています。

6年前までの在学時に比べると図書館は発展しているのが明らかです。1年程前に図書館長が変わられたことも大きく影響しているのでしょう。開架図書の大巾な増加、コンピューター図書検索法、ビデオ教材の増加等……。これから自動化、電子化も楽しみです。

ここで卒業生のひとりとして図書館への要望を恐縮ながら述べさせていただきます。(新刊図書の迅速な購入とかコピー代値下げコピー機増設等の要望は在校生におまかせしまして、あくまで卒業生の立場からです。)

卒業生に対して開かれた図書館利用の環境を整備して欲しいことです。具体的には、

◎貸出し制度の確立

ほとんどの卒業生にとって地理的、時間的制約のため再々と来るのは困難である。また私のように来るのが可能でも一日の限られた開館時間内だけでは満足できない場合がほとんどである。

郵送による返却及び貸出し方法が可能になることを期待したい。

○日曜日、祝祭日、土曜日の開館

地理的に来校可能な者にとっては断然利用しやすくなります。しかし実際的には極少数の利用者にしかならないかもしれませんが、この件に関しましては在校生の利用希望者も少なからずいると思いましたので敢えて提案致しました。

△情報提供など

貸出し制度と関連しますが新着図書案内や文献検索協力等…。Faxやパソコン通信の利用など…。

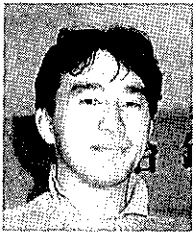
(卒業生の利用にかかる諸経費は手数料を含めて当然利用者自己負担とする。)

以上、一方的に純粋に希望を述べた。いざ実現化となれば我々内情の無知な者には理解しえない困難な問題点が山積していることでしょう。貸出し制度に関しては是非、前向きに検討して頂きたく思います。

年々、確実に増加する卒業生と在校生や大学、病院関係の先生方が図書館の利用を通じて互

いに刺激し合える関係が生じればよいと思います。例えば、決して教科書どおりにならない生身の人間相手の臨床の雰囲気等を在校生は感じとる時があるかもしれない。一方卒業生にとっては学生時代抱いていた新鮮な目標、気持ちを再確認し日々の業務、臨床に追われマンネリ化しそうな生活を顧みるきっかけになるかもしれません。

さまざまな立場の人の利用が図書館全体の活性化の原動力となりえます。我々みんなが一構成員であることを認識し、図書館の一層の発展を願っております。



研修鍼灸師 2期
福永雅喜

研修鍼灸師も二年目となり、この明治鍼灸大学にこれこれ6年も通うことになりました。研修鍼灸師になってからの2年間は、学生時代に比べると図書館を利用する時間もかなり減りましたが、この6年を振り返ってみて感想や意見を述べたいと思います。

学生時代、1・2年生の図書館というと、レポートの資料の収集・作製の場でした。このころ、自分の根っからの集中力のなさというか、何でも気になる性格のためか、資料を探す一方で、すぐにテーマから外れた本を見つけては読み込んでしまい、探す資料はたいした量でもないのに、図書館にいる時間が長いという、とても効率の悪いことをしていました。でも、そのときに見つけた本がとても印象的で、あーこんなところにこんな本があったのか、と図書館の奥の深さというか、自分の知識の無さというかを痛感しました。この頃は必要に駆られて利用することが多かったと思います。

3・4年生になる図書館を利用する時間がぐっと増えました。特に雑誌に興味を持ち、いろいろな分野の最新情報が得られるこれらの本は、とりあえず読んでみてもとてもおもしろいものでした。全然興味のないテーマの特集でも、ざっと読んでみると自分が思いもしないところで、いろいろなことが思いがけないうつながりを持っていて、とりあえず流し読みをするというよう

な習慣が付きましました。

研修鍼灸師となってからは、臨床医学の本や外国語の文献も目を通すようになりました。この頃に館長も変わり、図書館の改善に積極的に取り組まれ、開架図書が増加、図書検索装置の導入、開架時間の延長など、僕らの意見も反映されるようになりました。

次に、このような6年間で気づいたことを述べます。

まず、図書館を利用する立場の者についてです。図書館は、皆が利用する場であるのにもかかわらず騒がしいことが多く、黙って座って居眠りしているぐらいならまだしもソファなどで横たわっている者もいるくらいで、他の利用者からみると非常に不愉快です。第2に図書を大切に扱うということです。平気で、ラインを引いたり、折り曲げたり、なかには無断で持ち出し返却しないなど、個人ではなかなか購入できないような高価な本が多いのにあまりに粗末に扱すぎるということです。このようにほとんど常識のようなことが守られていないということは非常に残念なことです。

次に、図書館への要望です。第1は、図書貸し出し・返却の手続きの簡略化です。最近バーコードのシールが付いている図書が増えて、近々実現するといううわさ話も聞きますが、いち早く何とかしてほしいものです。第2は、図書の検索法です。去年ぐらいから、検索にコンピューターが導入されましたが、入力されているデータが少なく能率的な検索はまだ充分にできないし、欲を言えばリストのプリントアウトが出来るとうれしいのですが、これは、新着の図書、雑誌がどんどんある上に、データの入力といったちごっこのようなものですが、どうにか頑張って下さい。第3は、学生の要望をもっと聞いてもよいのではないかという点です。学生が図書を希望できるということ自体を知らない人も多いだろうし、いくら手続きが多いといえ、希望を提出してから実際に入るまで半年以上もかかるというのも何とかして欲しいものです。第4は、他大学図書館とのつながりです。近々京都市内の私立大学は相互単位制度が実現しようとしているのに、この大学のように単科大学で専門書は多くても他の分野の本は見たくても見れないというのも何とかならないのかと思いま

す。第5は、ちょっと言いにくいのですが、図書館の運営についてあまりにも熱心に討論されるために、図書館中にその声が響きわたり、少し気が散ってしまうことです。ま、これは仕方のないことです。

以上、好き勝手なことをとうとうと述べてきましたが、基本的には図書館が好きで、もう自分にはなくてはならないものになりつつあります。文句ばかり言ってしまいましたが、これも図書館がちょっとでもよくなればと考えてのことです。また、僕らのような利用者がどんどん意見を言っていけないと変わっていかないでしょう。これからも、どんどん意見を言ってみましょう。その前に、意見をいえるような節度ある態度を示してから。



大学院修士2回生
新原 寿志

最近、検索ソフトが導入されキーワードによる検索が可能になり、それまでの目録カードに比べ、それは数多くの本を瞬時に検索できる画期的なものでした。私が入学した当時は大部分の本が閉架になっており、本1冊探すのも目録カードを一枚一枚めくらなくてはならず、とてもめんどろに思っていました。そんな私ですから一回生のときあまり本を借りた記憶がありません。しかし、学部が上がるに従いレポートを書く機会も増え図書館に行くことも多くなりました。情けない話ですが、当時レポートを書くにあたって、それまでに一部開架になっていた本だけを適当に見繕って借りて、あとの足りない部分は自分で購入した本や友人のコピーをみてレポートを書いていた。

ここ2年間ほどで開架の本が大幅に増やされ、すぐに手にとって閲覧できるようになりました。どの本を選んだらよいかというと、本が多いだけになかなか決めにくいものです。全部の本に目を通すのが一番よいのですが、それにしても何から優先的に選べばよいか考えどころです。最近、学生の本離れが進み小学校の図書館やはたまた教科書にマンガが登場するようになったとか。話の論点は多少食い違うかもしれませ

んが、挿絵や写真が多いほうがなにかと理解するのに都合がよいように感じるのは私だけでしょうか。まず自分の知りたい内容があるとなれば、大まかに全体を理解できる本から探してゆき、徐々に内容の詳しいものを選ぶことが能率的でしょう。そのときに挿絵や写真の見やすいもの、まとめとして内容を簡所書きしているものなど、大まかに内容の把握できるものを探してだし、内容の論点をはっきりさせてからレポートを書くのがレポートをまとめる際とても役に立ちます。いくら詳しく書いてあるからといっても、いきなり文字ばかり羅列してある本を読み始めるのはどうかと思います。かといってあまり内容を簡略化しすぎている入門書的な本ばかりでは、誤った理解のもとにもなるので注意したいものです。

次に大事なことは本の年代ではないでしょうか。免疫学、生化学、生理学などの基礎系の本やその他の臨床専門書などは何年かに一度は改訂されているので同じ題名の本でも常に新しいものを選ぶのがよいと思います。中にはかなり古い本も混ざっているので内容が変更されていないかチェックしたほうが無難でしょう。

3年前から検索ソフトが導入されました。図書館に行くとい一回生でしょうか、コンピューターの前でしどろもどろしている学生さんをみる場合があります。検索ソフトでは目録カードにはないキーワード検索が可能になりました。テーマを決めて本を検索する場合にはよいのですが、題名のみを検索なので知りたい内容と異なることもあるようです。レポートを書く際には、何種類かのキーワードで検索するのが安全だと思います。また、一部登録されていないのか検索に引っ掛からない本もあるようなのでご注意ください！

開架の増設、検索ソフト、目録カードそれぞれに長所・短所があると思います。要はうまく利用することです。本を選ぶときもそうですが一冊の本を過信する事なく、何種類かの方法で広く知識を得ることでしょう。そうすればもっと学習能率が上がり内容の濃いレポートが書けるのではないのでしょうか。

なにやら偉そうに書いてきましたが、そんなことは当たり前と知っているかたも多いと思います。いや中にはそれは間違いだというかたもいらっしやると思います。なぜこんなことを書

いてきたかと言うと、先にも書いた通り私は大の活字嫌いでした。というのも以上のような簡単な作業をせず、ただ黙々と一冊の本を片っ端から読み、全体の内容をよく把握できないまま読み終えることが多かったからです。ですからレポートを書くにも内容のまとめ方が分からず、細かい字でだらだらと長いレポートを書きました。では今はどうかというと、以前より自分ではましになっていると思います。慣れも大きいのではないのでしょうか、要は何回も書くかまたレポートのうまい人の真似をするのが一番の近道かもしれません。

最後に、最近ではめっきり使うことの減った目録カードですが、もし暇があれば何枚かめくってみるのもどうでしょうか。今はCDに変わり左右の人差し指でレコードを一枚一枚探すこともなくなりましたが、その要領で目録カードを検索すれば思わぬ良書を見つけるかもしれませんよ。



3 回生
繁原 貴子

——成獣したナウマンゾウの椎孔は成人の手首にはめてフラフープできるほど大きい。

1994年の夏休みで最も嬉しかったことは野尻湖畔でナウマンゾウの化石をナマで見たことになるはずだったのですが、ついうっかり夏休みの終わる6日前に図書館へ来てしまったためにその気持ちはなえてしまいました。

図書館のそれまで机があったところに約4千冊の本がたった24個の本棚が増えていたのです。いきなり図書室の陰影部が増え、室内に重厚な雰囲気もできていました。増えた24個の本棚のうち学習スペースに面する6個には一面英語の専門書がずらっと並んでいました。私はそれを見て横文字をよくしらなかったのが実利的でなく感情的に素直な感想で、大学の図書館みただわー、と思いました。

同時に、これらの本棚ができあがるまでにかかった仕事量を勝手に推測して感嘆しました。これらの本を書庫から出したということは、目

に見えている分だけでも実際に24個の本棚を組立て本の山を両腕に抱えて書庫と本棚の間を何十回も往復したことの結果です。書庫から出せたということ自体は、書庫の中の整理が至極きちんとなされて管理が把握されていないとできないことだからそれがなされたということになります。移すということは検索機のデータ変更も生じさせそれも処理したことになります。いくつもの課題を段階的に達成してやってやることができる24個の本棚。図書館でお見掛けする職員の方の数は5本の指であまりがでるほどだったと思います。その数でこれらの仕事をいつもの仕事をしながらやった。すごいなぁと思ったのです。

私が初めて入った3年前の図書館閲覧スペースは、本は日本十進分類法に準じて分類してあったけれど、本棚に並べられていた方法はあまり日本十進分類法ではありませんでした。このことに関しては、今までの利用者の利用の仕方もあったろうし、利用者数や作業量に対して職員数が足りないのかもしれないし、またこの図書館の役割はあまり閲覧用ではないのかと思いました。それならばそれで、閲覧用の本についてはよく寄って、何がどこにあるのかだいたいのところを記憶すればいいのだと思いました。

ところが1年経って2年経って3年目、閲覧室は冊数が増えただけでなく分類法に従ってピシッと整理され、本棚の上にはラベルがつけました。この状態が在るべき状態なのと言える人は健全ですが、私はそうでない状態から数段上のこの整然とした状態に持ってきたことは大変えらいことだと思いました。新しく本を増やし本棚を増やし本を並べ変えた人達の頭の中が、どれだけ図書館に手間をかけたゆえに整理され体系が身についたのかと思います。だから新しい状態の閲覧室は見るだけで結構楽しい気持ちになります。

図書館の閉館時間を延長してほしいとか、貸し出し期間を延長してほしいとか、開架図書の数を増やして欲しいとかいう要望は入学した3年前からよく聞きました。図書館の職員さんは個人の努力で補える範囲で業務を拡大しようという姿勢でいらっしゃったけれど、やはり制度的に変えないと根本的には変わらないのだなぁという感じを受けました。それが今延長され、

増えました。前例があって歯止めがかかったり、前例がなくて腰が上がりなかつたり、いろいろ条件的に制約のある環境で、前向きに物事を進めたのは結構大変なことだったのではないかと思います。意志が弱かったり、手段に対して不明瞭だったり、社会が複雑すぎてくると、論理的な考えとその実行とは離れてくるけれども、それと反対の現象を見せつけられると、ふだん見慣れていないのでぎょっとするのだと思います。

2年生のころ、よく図書館に遅くまで残っていると、また昼間でも、職員さんたちがディスクッションする大声が聞こえてきました。うちの図書館はヒビキがいいですね。そしてディスクッションのあとは大抵しばらくすると従来の制度にどこか改革が生じていました。このことは大変面白かった。改革されて、図書館は使いやすくなったと思います。

館員さんは書庫整理をされて腱鞘炎になられたということを知って私は腱鞘炎の概念に、図書館業務の人（殊に書庫整理したばかりの図書館）はなりやすいと付け加えようと思いました。

阪大の図書館は前の夏床上浸水にみまわれるという不幸にあいましたが、標高高くあるワタクシ達の図書館はまかり間違ってもそのような惨事にみまわれることはない。胡麻川が氾濫したとしてもノアの箱船のようにぼつんと残ることでしょう。やるなぁ。

'94年度の図書館は私に希望を見せてくれました。

図書館への希望：書道部の作品をかざらして下さい。



図書館利用

2回生

小林 貴子

どの学校にも大小関係なく図書館は必ず設置されている。図書館は利用する人によって用途も変わってくる。勉強したり、本を片手に休息したり、いろんな本を手にしながらか趣味となり得るものを探したり追究したりというようにである。では、我々の図書館

は学生にとってどのような存在なのであろうか。

本校の図書館が覚醒で賑わっているのは、テスト前かレポート提出で追い込まれている時であろう。この時ばかりは座る机もない程で、本来ならば「静かな所」でなければならぬ図書館に学生の声飛び交っている。そして、一度その時期が去ると本来の静けさを取り戻した図書館へと変わっていく。利用者は10人程度で、それぞれが思い思いのことをしている時である。私も後者のような図書館利用をしたいものである。

早くも2年この学校に通っているが、私が図書館に足を運んでいる回数も、手にした本も極々わずかである。普段「小さい図書館」と思っている、手にした本の冊数を思うと、大きな図書館であることを実感せざるを得ない。

本校の図書館に陳列されている書物は、ほとんどが専門書で、一般書物がないために逃げる場所もなく、手にしにくいイメージを我々に与える。しかし、そういう専門書であっても、中を開けば何かを発見することができる。発見したものは全てが自分の知識となって一生残るはずである。難しい本だから敬遠するのではなく、自分の知識を増やすつもりで、暇つぶしに、取りあえず手にしてみることが大切と思う。

本を開くこと、読むことを苦痛に思っていない。自分を大きく前進させてくれる媒介物として書物を開くべきであろう。学校の講義だけで全てを知ることが不可能である。それをヒントにどう自分なりに勉強していくかが重要となり、どれだけ多くの書物を開き、自分のものにしたかが問題となる。

知識の多さに損はなく、そういう鍼灸師に治療してもらった方が安心できる。同じ道を選んだ者同士教え合い、競い合うためにも本を読むことを推める。同時に私自身も残り2年間で1回でも多く図書館に通い、1冊でも多くの本を手にし、今まで無駄に利用してきた分も取り戻していきたいと思う。

図書と研究

内科学教室教授

中村直登

医学研究に図書館は必須である。日本の医科大学の図書館は規模も小さく、開館時間も短い。米国の医科大学では、その規模も蔵書量も日本とは比較にならないほど豊であるだけでなく、開館時間もはるかに長い。私の留学したマサチューセッツ大学では午前8時より翌日の午前1時まで開館している。図書館がその大学や国家の研究に対する理解や意欲を反映しているとすれば、日米間の研究レベルの差は決して縮小することはないと考えられ、暗たんたる気持ちになる。日本でのこの劣悪な条件下で研究を進めたいならば、どうすれば良いのだろうか？ 幸運なことに最近のパーソナルコンピューターの普及によってメッドラインと称するデータベースが利用可能となっている。このデータベースにはほとんどの主要な論文（英文のみ）とその抄録が収録されており、キーワードを使って自分の研究に必要な文献を瞬時に収集することができる。しかし、収集できるのは残念ながら抄録のみであり、より詳しい内容はやはり論文を読まずには解らない。抄録のみから得られる知識は断片的であり、研究内容をイメージすることが難しく、結局利用度の低い知識となってしまうため、抄録だけを読んでいては研究を発展させることは難しい。それに加えて、あまりに大量の情報を一瞬にして入手できるため、その情報量に対応できずに取捨選択を誤ることもあり、また単にパニック状態に陥ることもある。情報の収集には各個人のリズムがあり、それを無視して情報を詰め込もうとしても結局消化不良となるだけである。以上の様な理由でコンピューターを利用した情報収集には大きな長所と短所があり、図書館の代理にはならない。

図書館を利用して情報を収集する場合の利点は副産物にある。目的とする文献を探す時には必ず目次を読まなくてはならない、この時、目次の中に実に興味深い論文を発見することがしばしばある。この様な論文はキーワードでの検索ではつかまらないが、その内容は自身の研究

に大きな示唆を含んでいることが多い。このような幸運な偶然を楽しめるのも図書館ならばこそである。

適正な情報を収集するためにはパソコン、データベース、図書館の3つが必須であるが、情報を集めるだけでは意味がない。研究を進めるためには大きな精神的エネルギーと研究分野のイメージが必要である。情報を集めるには物理的困難はあっても、ある一定の時間をかければ達成可能であるが、イメージや精神的エネルギーは時間をかけてもわきあがって来るものではない。それならばイメージや精神的エネルギーはどうすれば得られるのだろうか？

イメージは断片的な記憶の積み重ねや、系統的な学習、及び過去の経験などが頭脳の中で渾然一体となってわきあがってくるものであり、その第一の要素は情報の絶対量であり、第二の要素は情報の演算処理能力である。いわゆる記憶力と思考能力がこれらを司っており、これらはいわゆる学力と相関する場合が多い。しかし、学力のある者が必ず有能とは限らない。生まれ持った能力を発揮させるのは熱意と哲学である。すなわち精神的エネルギーが大変重要な働きをするのである。この主として前頭葉の働きに依存する能力を鍛えるためには、デジタル的情報の集積では全く不十分であり、アナグロ的刺激が決定的に重要であると考えられる。すなわち、五感を使って得る感覚や、心の中からの感情が豊かでなくてはエネルギーにならない。豊かな感性を持った個人が気概に富んだ論文を読み、自分の手を動かして研究を進めてこそ良い研究が生まれるのである。

図書館よりの回答

今回も寄稿者の方よりいくつかのご指摘がなされていますので、可能な範囲でお答え致します。

- (1) 事務室での議論がうるさい：申し訳ございません。一言の弁解の余地もありません。今後厳重に注意します。ただ議論できる場所が事務室しかありませんので多少の発声はご容赦下さい。
- (2) 卒業生への貸出：明治東洋医学院専門学

校（吹田）では実現しているようですが、対象者は付近に居住する人に限られているようです。当館でも特に禁止しているわけではありませんで、館長の特別許可という途は用意してあります。ただ返却だけは確実にしていただくなくてはなりません。特に郵送による貸出、返却の要望があるようですが、やるとすると大変革となるわけで今のところタイムテーブルにはのせておりません。

- (3) 学生の要望をもっと聴け：お言葉をかえすようですが図書館としてはむしろ学生諸君からの要求をもっと聴きたいということを繰り返し表明しております。対応可能な要望については最大限対応しているつもりであります。遠慮があるのかもしれないかもしれませんが無用なことです。どんどん要求を突き付けて下さい。
- (4) 図書を注文してから届くのに半年もかかる：半年は大袈裟ですが2～3カ月はかかります。おおよその流れを紹介します。図書の購入希望がありますと、それがほぼ100冊程度貯まるかあるいはそれに満たずとも1カ月程度経過しますと図書館でそれをまとめ図書館運営委員会に回覧し了承を得ます。それから注文を出すこととなります。これでほぼ1.5カ月が経過します。後は本屋の努力次第です。在庫がありましたらその時点で入ってきます。ないときはそれを取り寄せる時間が必要となります。図書館の判断だけで購入するわけにはいきませんので、最低そのくらいの時間がかかることはご了承願います。
- (5) 他大学図書館とのつながり：これは現在でもあります。その希望のある場合は図書館まで申し出て頂ければ必要な要請書を発行します。それを持参すればふつうは拒絶されることはないようです。従来も4年生、研修鍼灸師、大学院生等多くの人が利用されています。
- (6) 習字等の展示を図書館内でさせて欲しい：原稿をお願いした方が偶然書道部に所属されていたので出てきた要望と思います。今までこのような要望が寄せられたこと

はありませんでしたが、特に拒絶する理由はありませんのでそうする方向で検討させていただきます。ただ、図書館運営委員会に諮る必要があること、無節操にやると問題が出るので検討の時間をお願いします。

- (7) 土、日、祝日にも開館せよとのことですが、これには人員を配置しなければなりません。膨大な人件費の発生を伴います。図書館の一存では如何ともしがたいことです。残念ながらお答えできる立場ではありません。ご了承下さい。
- (8) 貸出、返却の簡略化をということですが、これは利用者の皆さんよりも図書館側が希望していることです。というのは利用の活発化に伴ってそれらの事務が非常に煩雑になってきております。平成7年度にはそれを実行する予定です。（予算が通れば）。その暁にはもういちいち書名を書く必要はなくなっていることと思えます。ご期待下さい。
- (9) 検索してそのリストをプリントアウトしたいということですがこれは実際にやると大変なのです。すぐ無制限にプリントアウトすることが目にみえているからです。それに何十冊も一度に検索することはまずないわけですから、メモをとることでご辛抱頂こうお願いします。
- (10) 専門書以外の図書が少ないというご指摘ですが、図書館としてはそうは思っておりません。むしろ多いと思っております。図書館報13号図書館データ・データをご参照下さい。むしろ鍼灸関連の図書が少ないといつも怒られております。また少ないと思われる場合にはどしどし図書館までそのような図書を推薦して頂きたく存じます。

「孤独の研究」……木原武一著

PHP研究所発行、1993.

広く古典とよばれる本は、どの本でも一冊の本としてとりあげるに値する。たとえば、岩波文庫の本は、それぞれ、長い年月の淘汰を経て読み続けられてきている。そうした古典は多くの著名人が一冊の本としてとりあげているので、今回は、結構難しいテーマを扱っていながら、非常に読み易く、かつ面白く読めた本として、「孤独の研究」を推薦する。

孤独といば、私には、学生時代に読んでパセティックな衝撃をうけた、J. J. ルソーの「孤独な散歩者の夢想」が思い出され、なつかしい思いがする。この本は、ニーチェとショーペンハウエル（第2章）、グレン・ゲールド（第3章）、ピュリツァーとH. ヒューズ（第4章）、アミエル（第5章）、モンテーニュ、ソロー、プルースト（第6章）といった人達の生き方を通して、彼等が、いかに孤独とつきあったか、孤独を友としたか、また、孤独を恐れながら寂々と生きたかを面白く読ましてくれる。とくに、「孤独の沙汰も金しだい」という題の第4章では、ピュリツァーや、ヒューズの病的といえる孤独との戦いに、思わず、ふうんとため息をついたり、一方では、滑稽さに微笑ましくもなったりした。

また、この本を読んで得をしたことがある。それは、第3章に出てくる、グレン・ゲールドという天才的ピアニストの名前を知ったことである。たまたま立寄ったレコード店で、割引セールをしていたので、ゲールドのCDを買って帰ってさっそく聴いてみた。バッハやベートーベンのCDは多少所有しているものの、重厚な音楽はあまり聴かない私でさえ、ゲールドのピアノ演奏は、著者が賞讃しているとおりに、なるほどと思わせるものがある。

著者が第1章の「人はひとり」の中で述べているように、孤独には大きく別けて、2種類の孤独があるだろう。一つは「小人閑居して不善をなす」とか、「孤独は悪魔の仕事場である」

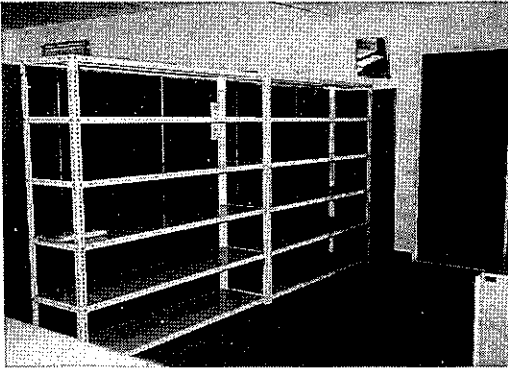
という言葉にみられるように、危ない孤独である。私なりの言い方をすれば、世界から閉ざされてゆく、見捨てられてゆく孤独である。もう一つの孤独は、著者が述べているように、人間にとってかけがえのない大切な状況を呈する孤独である。全ての秀れたもの、価値あるもの、人びとを感動させるもの、人びとの記憶に残るものは孤独の産物であるということである。多くの大学に於ても、おそらく、研究者として大成し、秀れた業績をあげている人達は、孤独に耐えられるすぐれた精神力をもっているであろうし、長い孤独な研究生活の期間を経て、世に認められる秀れた研究の成果を生み出したという、そういうプロセスを経験していることと思われる。こういった孤独は、私なりの言い方では世界に対して開かれている孤独ということになる。このような非常に創造的な人々の生産的に寄与する孤独にさいて、さらに読みたい人には、最近出版された、アンソニー・ストーの「孤独……自己への回帰」を読むことをおすすめする。

孤独ということと、独居（一人で居る）ということとは必ずしも一致しない。むしろ孤独を感じる、寂しいと感じる孤独感が問題であろう。人生の中で孤独感を一番もつ時期は、多分、青年期と老年期ではないかと思う。青年期の孤独感是非常に鮮烈で、一見、世界から見捨てられたような寂しさを呈すると思われるが、本質的には、孤立した個人として、自立して、大人になっていくための孤独であり、それを乗り越えようとする戦いは肯定的なとらえ方も出来るだろう。それに対して、老年期の孤独はやはり、世界から閉めだされていく孤独であり、何人たりとも、それから免れることは出来ない孤独である。高齢化社会を迎えている現在、多くの老人や、これから老人になっていく人達をも含めて、孤独の問題は重要な課題となるだろう。

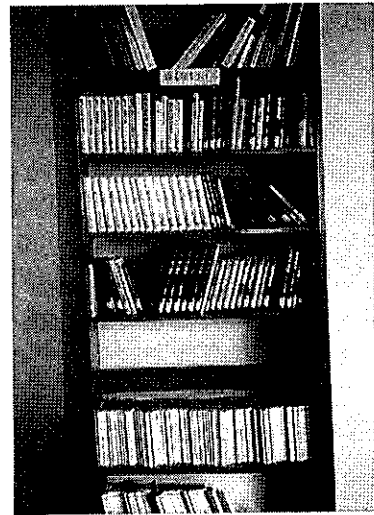
図書館よりのお知らせとお願い

附属図書館

1. 新着図書コーナーをつくりました。従来新着図書は開架に出す分は別として受け入れ手続が済み次第書庫に入れておりましたがそれでは人目につくことも少ないだろうということで、一ヶ月程度の期間表に出すようにしました。場所は時計の左隣です。ご覧頂こうお願いします。
2. 図書館内は飲食喫煙禁止です。最近特に目に付くようになりました。閲覧室内にジュース、お茶の缶、あるいはお菓子の袋等を持ち込まないで下さい。見付けた場合は即時退出することを命じます。集中実習のおりなど、皆と一緒にワイワイガヤガヤやるときに特に著しいようです。絶対にやめて下さい。
3. 開架図書に参考書、指定図書のラベルが貼ってあるものがあります。従来これらは使用頻度が高いので貸出禁止の措置がとられていましたが、実情はそうでもないことがはっきりしましたので、この扱いは中止します。今後一般図書と同様の貸出を行いません。なお使用頻度の高い図書については複数そろえることで対処致します。
4. 荷物用棚を設置しました。ロッカーに入りきらない大きなバッグ等は通路に置かず棚を利用して下さい。図書館利用時以外には荷物を置かないで下さい。



荷物置場



新着図書コーナー

図書館運営委員会記事

附属図書館

平成6年度第1回、平成6年5月13日(金)

(1) 報告事項

①蔵書の現況について

図書合計39,850冊になったことが報告された。昨年度より1,852冊の増加である。雑誌は学術雑誌211種、一般雑誌21種の計232種である。

②前年度の図書館利用状況について

貸出証発行人数が報告された。各学年とも半程度程度であった。開架図書は前年より1,710冊

の増加を行なった。貸出件数2,080件、3,065冊であった。

③所在不明図書、破損図書の除籍について

平成4年度所在不明図書11冊をまた平成5年度所在不明図書21冊についても平成7年3月に、破損図書9冊を平成6年5月に除籍することを報告した。

④前年度の収書状況について

図書総冊数1,415冊を収書したことが報告さ

れた。

⑤コンピュータでの資料貸出計画について
貸出業務の自動化を推進することが報告された。

(2) 協議事項

①米原記念文庫の選書内容の変更について
従来文学作品に限っていたが、利用状況からみて医学書を中心とした選書をするに決定した。

②学術雑誌の新規購読について
申請のあった以下の4種の雑誌について協議され了承された。

Pain Review, Magnetic Resonance Imaging, World Journal of Acupuncture Moxibution, 中西医結合雑誌(日本語版)

③一般雑誌の見直しについて
5種の一般雑誌を指定から除外した。現代の図書館、医学図書館、図書館雑誌、フォト、時の動き

1種については購読中止とした。諸君
新たに種の雑誌を購読することにした。プレジデント、星の手帳、数学セミナー、こころの科学

④図書館利用規定について
従来のものは短大時代からのままであり、実情にそぐわないので大幅に改訂することにした。

⑤紛失図書の弁償について
基本的に個人による弁償を求めていくことを確認した。

⑥図書カードの作成・発行について
貸出業務自動化に伴う図書カードを作成することが了承された。

平成6年度第2回、平成6年11月4日(金)

(1) 報告事項

①開架図書冊数について
今年度行なった開架作業の結果本日現在で10,396冊が開架となっていることが報告された。

②図書館報について
従来とおりの記事以外に大学院博士課程の開設にあたり学長よりの文章を寄稿してもらうことが報告された。

③紛失図書の弁償について
紛失図書の処理は数人について行なわれたもののまだほとんどは未処理である。ついてはひ

きつづき弁償を求めていくことにした。

(2) 協議事項

①来年度の予算について
来年度の予算については、貸出の自動化、検索、バックアップの高速化を最優先課題とすることが承認された。また電子機器の将来の増加を考えれば図書館への電流容量の増加も考えておかねばならぬ問題として指摘された。その他については従来通りの方針で臨むこととした。

②来年の新規購読雑誌について
新規購読雑誌として申請のあった次の4点が承認された。

学術雑誌: Journal of alternative and complementary medicine, Journal of clinical rehabilitation.

一般雑誌: 天文ガイド、教育と医学

③図書の除籍について
短大あるいは大学設立当初大量に登録された資料で現在では役目を終え不要と思われる資料については収納スペースの問題もあり今後除籍をすすめることとした。

④図書カードの再発行料金について
現在図書カードの再発行は全て無料で行なわれているが、今後自動化が完了したときに用いる図書カードについては、紛失、破損による再発行の場合は200円程度の実費を徴収することにし、正常使用により耐えられなくなったカードについては無料で交換することとした。

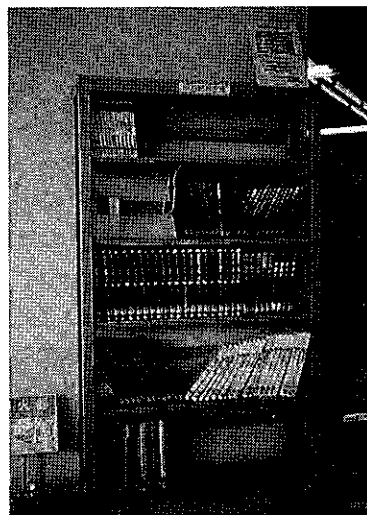
⑤その他
コピー用プリペイドカードの割引を要望していくことが確認された。



たには祭スナップ

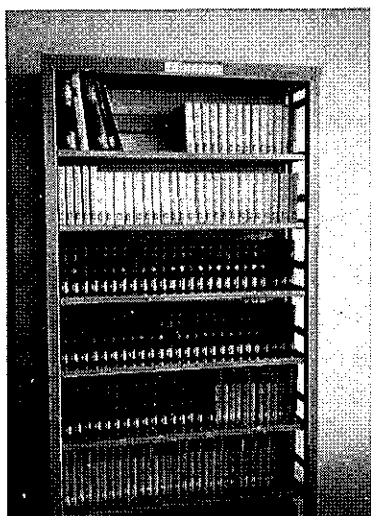
開架図書の変遷

当図書館は短大開設当初（昭和53年）完全閉架方式で出発しました。そのため学生諸君は全ての図書をカードで繰って検索しなければなりませんでした。あまりにも不便だということで昭和54年より一部開架に踏み切りました。以後順調に開架図書数は増えてきたのですが昭和63年以降増加がほぼ止まってしまいました。開架用の書架が少なかったのも原因ですが、より大きい理由は不明となる図書（主にかっぱらいによる）がかなりの冊数になってきたからではないかと思われます。しかし実験、実習が活発に行なわれるようになって学生諸君、指導教官の不満も高まってきました。そこで平成5年になりまして思いきって開架図書を増やしました。ただしこれは書架を設置せず従来からの空きスペースに詰め込んだものです。それでもほぼ1700冊増加させることができました。不明図書の増加が心配されたのですが、1年明けたところでそれが心配する程のものではないことが分かりましたので、今年度書架を設置し開架図書の大幅増加に踏み切りました。これまでの開架図書数の年次変化を表に示しておきました。平成5年の増加がはっきりしています。残念なが



明石記念文庫

らこの度のデータはまだ入っておりませんが総冊数は12000冊程度になっているはずですが、充分にご利用下さい。開架図書には一般図書以外にいくつかのジャンルがありますので説明を加えておきます。



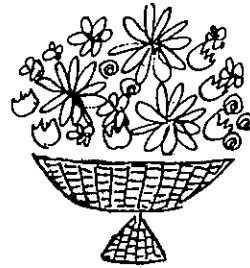
米原記念文庫

年	一般図書	参考図書	記念文庫	総計
昭54	1 1 2 0	2 9 3	0	1 4 1 3
昭55	1 8 9 0	3 1 1	4 0	2 2 4 1
昭56	2 0 5 9	3 1 9	9 1	2 4 6 9
昭57	2 5 0 1	3 2 7	1 5 9	2 9 8 7
昭58	2 7 0 4	3 5 0	1 7 8	3 2 3 2
昭59	2 8 8 0	4 1 4	2 4 2	3 5 3 6
昭60	3 0 5 3	4 3 6	2 4 2	3 7 3 1
昭61	3 4 0 6	4 5 8	2 9 1	4 1 5 5
昭62	3 4 6 7	4 6 6	3 4 3	4 2 5 6
昭63	3 6 1 7	4 6 6	3 8 1	4 4 4 4
平1	3 7 0 7	4 6 9	4 2 4	4 5 8 0
平2	3 7 3 1	4 6 3	4 5 1	4 6 2 5
平3	3 6 7 9	4 6 4	5 0 2	4 6 2 2
平4	3 7 1 3	4 6 4	5 3 8	4 6 9 5
平5	5 0 1 6	8 3 9	5 7 3	6 4 2 8

参考図書：禁帯出のラベルが貼ってあるもので、貸出は原則禁止です。百科事典、辞書、地図、ハンドブック等がそうっております。教官が講義等のため、やむなく持ち出す場合は当日の閉館時まで返却しなければなりません。これらの図書は一人が占有して見るのではなく、多数の人が随時参考にできるようにとの配慮からこのような制度がつけられています。

記念文庫：米原文庫と明石文庫があります。前者は昭和54年2月に短大一期生の米原久美子さんが交通事故で死去されたとき、関係者がその賠償金の一部をあて発足したものです。後者は本学院の元監事で京都府鍼灸師会会長であった明石輝信先生が昭和59年4月に他界されたとき先生の名前を記念したいというご遺族の希望により発足したものです。

卒業記念文庫：短大、3、4、5期生の諸君のものがあります。3期図説臨床内科講座、4期：看護のための臨床医学体系、医学生物学大事典、5期：内科シリーズ、日本血液学全書。整理の都合上、一般の図書と一緒に並べられていますが、書架の上部に、表示してあります。



▶図書館学うんちく◀

近代図書館成立の歴史

附属図書館 福田代見

これまでの図書館は、王侯貴族たちのつくったものか、修道院・大学など、学者の集まる所に設置されたものばかりであった。それは、支配体制の維持に役立ったばかりでなく、神殿・宮殿・王墓などの建造物、芸術品のコレクションなど、ともに支配者の権威を内外に誇示するという意味を多分にもっていた。17世紀になるとガブリエル・ノーデが、図書館は民衆のために設置することを強調。そして、知識の全分野にわたって、それぞれの分野で重要な著作の原本と訳本、最良の注釈書、参考図書を集めた。また人類の文献の遺産を収集・整理・保存するユニヴァーサル・ライブラリーの実現に向けての新しい図書館思想として「図書館設立に関する提言」を1627年に発表。

ノーデは珍しい稀にしかない本を偏愛する当時の風潮とたたかい、最近の文献に対しても、古い文献に対するのと同じくらい考慮して、偏見を排し、反対意見の著書も備え、その論争に対する是非の判断は読書に任せるべきで、図書

館の蔵書構成は一方的、偏向的、排他的であってはならないと戒めている。

分類については蔵書は単に所有者の名声を高めるばかりでなく、同時に一般公衆の要求を満足させるものでなければならない、という考え方から、もっとも平易で、自然なものでなければならないと考え、当時の大学の学部・学科にもとづいて12類に区分し、細目を加えた分類表を考案した。18世紀には、今までとは全くちがった新しいタイプの図書館「図書館会社」（会員制図書館）が出現した。

これは会員が一定の資金を出しあって図書の共同購入、共同利用する組織で、会員は、図書を借り出すこと、自分の読みたい図書の選択、役員を選出、株の遺贈・譲渡ができ、非会員であっても保証金と薄謝を支払うことで図書を借り出すことができる。これらの内容が充実するに伴って実質上は公共図書館としての性格を強めていった。その代表的なものが、1731年フィラデルフィアにおいて、ベンジャミン・フラン

クリンが中心になって設立したアメリカのフィラデルフィア図書館会社「ジャントー」と呼ばれるクラブである。ここでの会則によると、会員はすべて順番に、倫理・政治ないしは自然科学に関するなんらかの点について少なくとも一つの問題を提出し、真理探求のために仲間で討論することになっている。会員の蔵書を集会所に持ち寄り議論する時、その場で調べられるようにし、また家で読みたいと思う本は、めいめい自由に借り出す方法を実行した。18世紀の終りに近づくころ、少数ながら労働者階級の一部の人達が、経済的な向上を図り、政治上の権利を獲得し、社会改良を進める闘争のために、教育の必要性を感じるようになった。そのような時、中流階級あるいは知識階級の人達の発意と努力によって職工学校が開設され、財政的援助によって成立発展した。当然、学校教育には、図書と図書館が必要であり、学生が登録されると同時に図書の収書がおこなわれた。蔵書は自然科学と技術に重点がおかれ、論争の種をまくようなものは避けて、その他に歴史・紀行・小説など、教養と娯楽のためのものを配した。また閲覧室を設け、そこで図書の閲覧ができ、貸出により自宅などで学習することが出来る。このことは職工学校とその図書館が、社会教育に対する公共的な施設が貧弱というより、おそらく皆無の時代にあつて大きな役割を果たしたことは云うまでもなく、近代公共図書館としての萌芽が認められる。

近代公共図書館が備えていなければならない性格として(1)法律のもとで設置・運営されていること。

(2) 公費(税金)によって維持されていること。(3) すべての人が無料で利用できること。およそこの3点である。

中世の修道院の図書館にかわって、知識階級のための、すなわち学問研究のための図書館として新しく登場してくるのが、大学図書館である。

初期の大学には図書館はなく、教授は、各自で蔵書を持ち、学生に有料または無料で貸出することもあった。一方、学生は教科書をはじめ自分の読みたい本を、先生から借りるか本屋から借りるかして用意しなければならなかった。自分の本がもてるのはごく富裕な学生にかぎられていたので貸本屋が大いに繁昌していた。しかし、学生数が増加するにつれて、図書に対する要求も高まり、図書館が設けられるようになった。

公共、学校、大学、専門図書館の中で、大学図書館はもっとも古い伝統をもっており、その基盤は確立されている。日本でも戦前までは大学図書館がもっともよく発達し、図書館界のリーダーシップをとっていた感があった。しかし、戦後は公共図書館の活躍の方がめざましく、開架制でもレファレンスでも総体的には大学図書館の方が立ち遅れている。

ここ数年「大学図書館の近代化」の必要性が叫ばれ、徐々に改革の方向に動き出している。



本館東側梅林

新着東洋医学系図書一覽

(平成6年1月～12月収蔵分)

- 東西医学 ー基礎と臨床応用ー 曾野維喜著
南山堂 1993. 10
- やさしい中医学入門 関口善太著
東洋学術出版社 1993. 12
- 中医免疫学入門 劉正才, 尤煥文著 山内浩監訳
東洋学術出版社 1993. 10
- 取穴編(東洋医学講座 6) 小林詔司著
自然社 1990. 12
- 経絡積聚治療編(東洋医学講座 10)
小林三剛, 小林詔司著 自然社 1991. 07
- 更年期障害の漢方治療(疾患別臨床シリーズ 4)
村田高明著 現代出版プランニング 1991. 09
- 図説 東洋医学 用語編 大塚恭男, 木下晴都,
酒井シヅ等監修 学習研究社 1988. 10
- 舌診弁証図鑑 原色 日中共同研究
丸山彰貞, 張洪義著 エンタプライズ 1993. 04
- 漢方治療のABC(日本医師会障害教育シリーズ)
松田邦夫, 稲木一元, 佐藤弘編 医学書院 1992. 09
- 中医脉学と瀕湖脉学 川合重孝, 川井正久編著
谷口書店 1992. 08
- 漢方治療法 松下嘉一著 谷口書店 1994. 04
- 漢方診療法 松下嘉一著 谷口書店 1994. 04
- 医心方の研究 山本信吉, 宮下三郎, 杉立義一等著
オリエント出版 1994. 05
- 東洋医学養生法 竹内亨著
日本放送出版協会 1989. 10
- 中医免疫学入門 劉正才, 尤煥文著 山内浩監訳
東洋学術出版社 1993. 12
- 解説, 漢方名索引(日本漢方名医処方解説 第20巻)
松本一男監修 オリエント出版 1994. 05
- International conference on traditional Chinese
medicine and pharmacology, 1987 Shanghai,
China. China Academic Publishers 1987
- Synopsis of prescriptions of the golden cham-
ber. Zhang Zhongjing. New World Press 1987
- Treatise on febrile diseases caused by cold.
Zhang Zhongjing. New World Press 1986
- 宋元明清名医類案 一 姚若琴, 徐衡之主編
上海書店 1988. 07
- 宋元明清名医類案 二 姚若琴, 徐衡之主編
上海書店 1988. 07
- 宋元明清名医類案 三 姚若琴, 徐衡之主編
上海書店 1988. 07
- 宋元明清名医類案 四 姚若琴, 徐衡之主編
上海書店 1988. 07
- 中医字典 河南中医学院編
河南科学技术出版社 1988. 01
- 瘍科心得集 季経緯, 孫学威主編 中国書店 1987. 11
- 五運六氣詳解興運用 権依経, 季民聰編著
甘肅科学技術出版社 1987. 06
- 中医学方法論研究 祝世訥編
山東科学技術出版社 1985. 11
- 東洋医学大事典 講談社 大塚恭男, 木村雄四郎,
間中喜雄編 講談社 1993. 03
- 針灸学 臨床篇 天津中医学院, 後藤学園編
兵頭明監訳 東洋学術出版 1993. 10
- 鍼灸治療における感染防止の指針 小林寛伊監修
医歯薬出版 1993. 03
- 鍼術速成講座 こりと痛みを治す ー初級向ー
杉山勲著 緑書房 1984. 08
- 鍼術上達講座 自律神経失調を治す ー中級向ー
杉山勲著 緑書房 1991. 02
- あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅう・柔道整復
受験ポイントマスター共 通科目編 1 改訂版 執筆
小委員会編著 医道の日本社 1993. 11
- あん摩・マッサージ・指圧・鍼・灸・受験ポイントマ
スター専門科目編 執筆小委員会編著
医道の日本社 1993. 12
- 針灸学 臨床篇 天津中医学院, 後藤学園編 兵頭明
監訳 東洋学術出版 1993. 10
- 針灸学 基礎篇 天津中医学院, 後藤学園編 兵頭明
監訳 東洋学術出版 1993. 11
- 経穴断面解剖図解 上肢編 カラーアトラス 嚴振国
主編 川俣順一監訳 和田清吉等訳
医歯薬出版 1992. 03
- 経穴断面解剖図解 下肢編 カラーアトラス 嚴振国
主編 川俣順一監訳 和田清吉等訳
医歯薬出版 1992. 12
- トリガーポイント・マニュアル 筋膜痛と機能障害
第1巻 頭頸部編 Janet G. Travell, David G.
Simons 著 川原群大監訳 エンタプライズ 1992. 03
- トリガーポイント・マニュアル 筋膜痛と機能障害
第2巻 体幹・上肢編 Janet G. Travell, David
G. Simons 著 川原群大監訳
エンタプライズ 1992. 09
- 鍼灸師・柔整師のための治療院経営 Q & A. 1 成功
する経営早わかり理論篇 目黒章布著
医道の日本社 1993. 12
- 鍼灸師・柔整師のための治療院経営 Q & A. 2 魅力
ある治療院づくり実例篇 目黒章布著
医道の日本社 1993. 12
- 鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック 出端昭男著
医道の日本社 1993. 03
- 東洋医学 気の流れの測定・診断と治療 本山博著
宗教心理出版 1985. 06
- 東洋医学 気の流れの測定・診断と治療 本山博著
宗教心理出版 1985. 06
- 黄帝内経素問 現代語訳 下巻 南京中医学院編 石
田秀実監訳 東洋学術出版社 1993. 06
- 経絡 ー臓器機能測定についてー 本山博著
宗教心理学研究所 1974. 07
- 針灸学 臨床篇 天津中医学院, 後藤学園編 兵頭明
監訳 東洋学術出版 1993. 10
- 東洋医学の時代 シリーズ1990 針灸のなぞに挑む
代田文彦編著 東京書籍 1987. 08
- 解説 六, 江戸前期 七(臨床鍼灸古典全書 34) 篠
原孝市監修 オリエント出版 1992. 06
- 江戸中期 十三(臨床鍼灸古典全書 35) 篠原孝市監

修 オリエント出版 1992.06
 江戸後期 十一(臨床鍼灸古典全書 36) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1992.06
 成書年未詳資料 七(臨床鍼灸古典全書 37) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1992.06
 中国資料 二(臨床鍼灸古典全書 38) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1992.06
 中国資料 三(臨床鍼灸古典全書 39) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1992.06
 解説 七, 江戸初期 五, 江戸前期 八, 江戸中期 十四(臨床鍼灸古典全書 40) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.04
 江戸後期 十二(臨床鍼灸古典全書 41) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.04
 中国資料 四(臨床鍼灸古典全書 42) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.04
 中国資料 五(臨床鍼灸古典全書 43) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.04
 中国資料 六(臨床鍼灸古典全書 44) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.04
 中国資料 七(臨床鍼灸古典全書 45) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.04
 解説 八, 江戸前期 九(臨床鍼灸古典全書 46) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.11
 江戸後期 十三(臨床鍼灸古典全書 47) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.11
 中国資料 八(臨床鍼灸古典全書 48) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.11
 中国資料 九(臨床鍼灸古典全書 49) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.11
 中国資料 十(臨床鍼灸古典全書 50) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.11
 中国資料 十一(臨床鍼灸古典全書 51) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1993.11
 解説 九 鎌倉 二, 室町 二(臨床鍼灸古典全書 52) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1994.04
 江戸中期 十五(臨床鍼灸古典全書 53) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1994.04
 江戸後期 十四, 成書年未詳資料 八(臨床鍼灸古典全書 54) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1994.04
 中国資料 十二(臨床鍼灸古典全書 55) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1994.04

中国資料 十三(臨床鍼灸古典全書 56) 篠原孝市監修
 修 オリエント出版 1994.04
 朝鮮資料 二(臨床鍼灸古典全書 57) 篠原孝市監修
 オリエント出版 1994.04
 Chinese acupuncture and moxibustion. Cheng Xinnong(ed.) Foreign Languages Press 1987
 Atlas anatomique des points d'acupuncture. Chen Jing. Editions Scientifique et Techn 1984
 Applied Chinese acupuncture for clinical practitioners. Sun Xue Quan. Shandong Science and Technolog 1985
 Recueil d'experiences cliniques en acupuncture-moxa. Sun Xue Quan. Editions scientifique et techn 1987
 実用中医推拿学 駱競洪著 重慶出版社 1987.07
 耳針の臨床応用 陳琪荪, 許瑞征, 丁育德編著 江蘇科學技術出版社 1987.07
 針刺手法100種 陸壽康, 胡伯虎, 張兆髮編著 中国医薬科技出版社 1988.10
 針灸大辞典 程宝書主編 北京科学技術出版社 1988.12
 黄帝内经导读 傅維康, 吳鴻洲著 巴蜀書社 1988.03
 銅人腧穴鍼灸図経 王惟一編修 中国書店 1987.10
 鍼灸穴名釈義 周樹声著 安徽科学技術出版社 1985.05
 The Chinese plum-blossom needle therapy. Zhong Meiquan. The People's Medical Publishin 1986.05
 經穴釈義汜解 張晨星, 戚淦編著 上海翻譯出版公司 1984.06
 家庭按摩療法 霍金山編著 科学普及出版社 1987.01
 中医学基本常識及針灸学 周萍主編 安徽科学技術出版社 1989.09
 針灸養生経 王執中撰 中国書店 1987.11
 Principles and practice of contemporary acupuncture. Sung J. Liao, Mathew H. M. lee, Lorenz K. Y. Ng. Marcel Dekker 1994

新着医学系視聴覚資料一覽

(平成6年1月~12月収録分)

驚異の小宇宙 人体 II 脳と心 1 心が生まれた惑星 -進化- NHKクリエイティブ 1994
 驚異の小宇宙 人体 II 脳と心 2 脳が世界をつくる -知覚- NHKクリエイティブ 1994
 驚異の小宇宙 人体 II 脳と心 3 人生をつぐむ臓器 -記憶- NHKクリエイティブ 1994
 驚異の小宇宙 人体 II 脳と心 4 人はなぜ愛するか -感情- NHKクリエイティブ 1994
 驚異の小宇宙 人体 II 脳と心 5 秘められた復元

力 -発達と再生 NHKクリエイティブ 1994
 驚異の小宇宙 人体 II 脳と心 6 果てしなき脳宇宙 -無意識と創造性- NHKクリエイティブ 1994
 Slide atlas of immunology. Vol.1. Chapter 1 ~4. 3rd ed. Ivan Roitt, Jonathan Brostoff, David Male.(ed.) Mosby 1994
 Slide atlas of immunology. Vol.2. Chapter 5 ~9. 3rd ed. Ivan Roitt, Jonathan Brostoff, David Male.(ed.) Mosby 1994

- Slide atlas of immunology. Vol.3. Chapter 10
~14. 3rd ed. Ivan Roitt, Jonathan Brostoff,
David Male.(ed.) Mosby 1994
- Slide atlas of immunology. Vol.4. Chapter 15
~18. 3rd ed. Ivan Roitt, Jonathan Brostoff,
David Male.(ed.) Mosby 1994
- Slide atlas of immunology. Vol.5. Chapter 19
~22. 3rd ed. Ivan Roitt, Jonathan Brostoff,
David Male.(ed.) Mosby 1994
- Slide atlas of immunology. Vol.6. Chapter 23
~25. 3rd ed. Ivan Roitt, Jonathan Brostoff,
David Male.(ed.) Mosby 1994
- 緊急重傷患者のケア 1 心臓発作 HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 2 コード：心停止 HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 3 急性呼吸不全 HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 4 気道閉塞 HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 5 糖尿病発作 HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 6 ショック HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 7 急性神経障害 HBJ 1993
- 緊急重傷患者のケア 8 急性代謝障害 HBJ 1993
- 核磁気共鳴法 -Nuclear magnetic resonance.-
ジャムコム出版 1990
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.1 メインホール 開
会式・特別講演1 1993年 11月21日 第三回世界鍼
灸学術大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.2 メインホール シ
ンポジウムA-1 1993年 11月21日 第三回世界鍼灸
学術大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.3 メインホール シ
ンポジウムA-2 1993年 11月21日 第三回世界鍼
灸学術大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.4 メインホール 特
別講演2 1993年 11月22日 第三回世界鍼灸学術大
会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.5 メインホール シ
ンポジウムB 1993年 11月22日 第三回世界鍼灸学
術大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.6 メインホール シ
ンポジウムC 1993年 11月23日 第三回世界鍼灸
学術大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.7 メインホール 基
調講演・閉会式 1993年 11月23日 第三回世界鍼灸
学術大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.8 ルームA ワーク
ショップ1 1993年 11月22日 第三回世界鍼灸学術
大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 第三回世界鍼灸学術大会 No.9 ルームA ワーク
ショップ2 1993年 11月22日 第三回世界鍼灸学術
大会 第三回世界鍼灸学術大会 1993
- 精神科看護におけるコミュニケーション -ビデオで
学ぶコミュニケーション 技法- 第一部 看護にお
けるコミュニケーションとは 鹿島清五郎監修
ワンパート出版販売事業部
- 精神科看護におけるコミュニケーション -ビデオで
学ぶコミュニケーション 技法- 第二部 コミュニ
ケーションの技法 鹿島清五郎監修
ワンパート出版販売事業部
- 精神科看護におけるコミュニケーション -ビデオで
学ぶコミュニケーション 技法- 第三部 様々な臨
床の場 鹿島清五郎監修 ワンパート出版販売事業部
- エイズ、あなたはどうしますか? -エイズ予防の正
しい知識と検査- エイズ予防財団監修
東京法規出版 1993
- 婦人科 1 基礎 (産婦人科超音波診断のコツ)
水野正彦監修 岡井崇指導・出演
ビデオジャポニカ 1993
- 婦人科 2 疾患 (産婦人科超音波診断のコツ)
水野正彦監修 岡井崇指導・出演
ビデオジャポニカ 1993
- 産科 1 妊娠初期 (産婦人科超音波診断のコツ)
水野正彦監修 岡井崇指導・出演
ビデオジャポニカ 1993
- 産科 2 妊娠中・後期 (産婦人科超音波診断のコツ)
水野正彦監修 岡井崇指導・出演
ビデオジャポニカ 1993

編集後記

館報をいじって2回目、前回の方針をほぼ引き継いで内容は固まったようだが、もうマンネリの気分が襲ってくる。気が多いのだろうか。今年度は教育課程が大幅に改革されたこともあり、教育委員会委員長の松浦教授に“基礎医学教育において図書館へ期待するもの”といったテーマで一筆お願いした。今後はこれで行こう。とりあえず来年は“臨床医学……”だ。編集の苦労はドンと減る。楽でいいわ。更に今回からは図書館運営委員会の記事も報告することにした。別に秘密にするようなことはなにもない。淡々としたものだ。利用者の一言からは相変わらず厳しい要望が相次いだ。特に耳の痛いのは事務室での議論の声がるさいとの指摘。気にしてはいるのだが話が微妙になるとつい大声に。読唇術でも習うか、筆談にするか、真面目に考えてみる必要があるようだ。カットにあの坂道の雪景色を入れてみた。“……の坂”という名称を入れたかったのだが、まだそれが無い。適当に“桜坂”としておいた。誰か相応しい名前を付けてくれませんか。